



第4学年理科学習指導案

日 時 平成17年11月17日(木) 2校時
 児 童 男12名 女18名 計30名
 指導者 三 浦 秀 行

1 単元名「もののかさと力」

2 本時の指導

(1) 目 標

水は押し縮めることができるか、压したときの手ごたえはどうかを、空気の場合と比較して考えることができる。

(2) 展 開

段階	学 習 活 動	支援・評価・準備
出 会 う つ か む 5	1 前時の学習を想起する 2 本時の課題をつかむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 水はおしちぢめると、かさは どうなるだろうか </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習では、空気が押し縮められたこと、押し縮めれば縮めるほど反発する力が大きくなることについて学んだことを確認する。 学習計画を立てる段階で課題を設定してあるので、確認程度に済ませる。
深 め る 30	3 予想する 4 実験方法を確認する 5 実験する ・水が押し縮められるか実験をする 6 結果を発表する	<ul style="list-style-type: none"> 第一次で自由に空気鉄砲や水鉄砲で遊ばせた時の思い出から推論できるようにする。 根拠のない予想も認めつつも、体験から引き出された予想は全体の前で取り上げ、評価する。 実験は個別実験とする。実験の方法については教師が指示する。 水が吹き出ないように力任せに実験をしないように注意させる。 実験が困難と予想される児童については、教師による支援を行う他に、友達と共同で実験を行ってもよいと声かけをする。 空気の場合と比較しながら、水の性質を考えるように促す。 実験の結果にばらつきが生じた場合は、教師の演示で確認の実験を行う。
ま と め る 10	7 まとめる ・実験の結果から分かったことをまとめる。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; width: fit-content;"> 水はおしちぢめても、空気とちがって かさはかわらない。 </div> 8 ふりかえる ・感想、疑問、発見したことなどをまとめる。 9 次の予告をする	(評) 水は押し縮めることができるか、压したときの手ごたえはどうかを、空気の場合と比較して考えることができたか。【科学的思考】(記録、発言) <ul style="list-style-type: none"> ノートに自由記述させ、次時の課題や発展学習の課題へとつなげていくようにさせたい。

(3) 評 価

水は押し縮めることができるか、压したときの手ごたえはどうかを、空気の場合と比較して考えることができたか。(記録、発言)